

-----  
[ 成果情報名 ] 飼いやすく肉質に優れた県産地どりの育成

[ 要約 ] 「雄系（シャモ×横斑ロック）×雌系ホワイトロック」による新交雑鶏は、産肉性能が現行はかた地どりと同等で、傷付き個体が少なく、むね肉の旨味成分が高い。

[ キーワード ] 交配様式、産肉性能、旨味成分、地どり

[ 担当部署 ] 家畜部 家きんチーム

[ 連絡先 ] 092-925-5232

[ 対象作目 ] 肉用鶏

[ 専門項目 ] 育種

[ 成果分類 ] 新技術  
-----

[ 背景・ねらい ]

現行の「はかた地どり」（雄系シャモ×雌系ホワイトロック）は、平成15年頃から、育成時における傷付き個体の増加が問題となっており、ブランド力を高めるための肉質の改良が求められていた。

そこで、農総試で供給可能な在来種雄系と「はかた地どり」生産孵化場で入手可能な肉専用種雌系を用いた組合せ交配により、飼いやすく、旨味成分に優れた、新しい県産地どりを育成する。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1．雄系にシャモ×横斑ロック、雌系にホワイトロック種を交配した新交雑鶏は、現行のはかた地どりと比較して生産指数は同等である（表1）。
- 2．新交雑鶏の傷付き個体率は、現行はかた地どりよりも大きく減少するため、飼いやすく、商品価値の高い個体の出荷量が増加する（表1）。
- 3．新交雑鶏のイノシン酸量は現行のはかた地どりより有意に約9%高く、より旨味成分の高い肉質を持つ（表2）。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1．現行のはかた地どりを新交雑鶏に切り替えて、特定JAS規格の認定を受け、平成22年秋から販売開始の予定である。
- 2．新交雑鶏は、つつき散らしによる飼料消費量の増加傾向が見られるため、孵化直後のデビークを必ず実施する。

[ 具体的データ ]

表 1 新交雑鶏の産肉性能等

鶏種	出荷	育成	出荷	飼料	生産	対生体歩留り		腹腔内	傷付き
	週齢	率	体重	要求率	指数	ムネ	モモ	脂肪率	個体率
新交雑鶏	12	% 98.9	kg 3.67	2.76	157	% 16.1	% 19.6	% 3.4	% 10.0**
現行はかた地どり	12	98.5	3.51	2.67	154	16.6	19.7	2.4	38.8

- 注) 1. 各データは雄雌平均値(19~21年度)、6~9月の高温期を除く育成成績2~3回の平均値。  
 2. 生産指数 =  $100 \times (\text{出荷体重} \times \text{育成率}) / (\text{出荷日齢} \times \text{飼料要求率})$ 。  
 3. 傷付き個体率は、出荷時点で背中 of 皮膚に傷のある個体比率(40~50羽供試)。  
 4. \*\*: 同一列内で有意差あり ( $p < 0.01$ , <sup>2</sup>検定)

表 2 むね肉の肉質理化学性評価

鶏種	イノシン酸量	剪断力価	加熱損失率
新交雑鶏	$\mu\text{mol/g}$ 8.62 *	g 708	% 13.3
現行はかた地どり	7.93	1,038	13.2

- 注) 1. 供試鶏は各区雄6個体、剪断力は幅1cmの肉をレオメーター&カミソリ刃で剪断  
 2. \*: 同一列内で有意差あり ( $p < 0.05$ , t検定)



図 1 新交雑鶏

「雄系(シャモ×横斑ロック)×雌系ホワイトロック」

[ その他 ]

研究課題名: 新しい県産地どりの開発

予算区分: 県特(競争力を高める新品種・新技術開発)

研究期間: 平成21年度(平成19~21年)

研究担当者: 西尾祐介、福原絵里子、小島雄次、中村由佳里